

「この街」のために。「あなた」のために。

そうこう®

S O U K O U

社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

TEL : 048-552-1111

2019年4月号（月刊）発行：社会医療法人 壮幸会 行田総合病院



2019 / 4月発行 / vol.048

特集 消化器外科①▶

『がん薬物療法専門医と腫瘍内科外来について』 消化器外科・福元医師

特集 消化器外科②▶

『より安全な手術のために～ICG 腸管血流評価を行っています』 消化器外科・鎗田医師

がん薬物療法専門医と 腫瘍内科外来について

消化器外科／福元 剛

昨年3月の『そうこう』でもご挨拶させていただきました、消化器外科の福元剛と申します。この度、最も取得が難しく専門医数も少ない『がん薬物療法専門医』を取得できましたので、当院で『腫瘍内科外来』を開設することになりました。がん薬物療法専門医、腫瘍内科というのは共に比較的新しい専門医と診療科であり、日本ではまだあまり聞きなれないかと存じま

す。「何を行う専門医なのか？そしてどのようなメリットがあるのか？」少し説明させていただきます。

現在でも多くの病院がそうであるように、日本でのがんに対する抗がん剤治療はそれぞれの臓器の専門医が担当することが多いです。例えば胃がんや大腸がんなら消化器の専門医が対応し、肺がんは呼吸器の専門医が対応していま

す。当院でも消化器外科で胃がんの手術を行った後、残念ながら再発してしまった患者さまにはそのまま消化器外科で抗がん剤治療を行っています。各臓器に精通した専門医が一貫して手術や抗がん剤治療を行うことは患者さまにとっても受け入れやすく、それぞれの臓器の管理や具合が悪くなった時の対応も迅速であることがメリットです。

しかし、本庶佑先生のノーベル賞受賞で話題になった免疫チェックポイント阻害薬『オプジーボ®』などに代表されるように、昨今の抗がん剤治療の進歩は凄まじいの一言に尽き、抗がん剤治療の複雑化は今後さらに進むと言われています。また、手術の分野でも当院泌尿器科ですでに導入されているロボット支援手術など技術の高度化が年々進んでいます。つまり、これまでのように手術も抗がん剤治療も一つの診療科で行うことが次第に難しくなってきたのです。

そんな状況に対応するためには我が国でも2005年に『がん対策基本法』が施行され2008年がん治療に対する整備が進められています。その一環として進められているのが『がん薬物療法専門医』の養成です。現在、日本には1300人程度の専門医が活躍していますが、その半数以上が大学病院やがんセンターなど都市部の病院に集中しており、地域の病院にはまだまだ行き届いていないのが現状です。埼玉県には34名の『がん薬物療法専門医』が

在籍（2019年2月22日現在、臨床腫瘍学会ホームページより）していますが、ほとんどが埼玉県南部の都市部にある病院に集中しています。

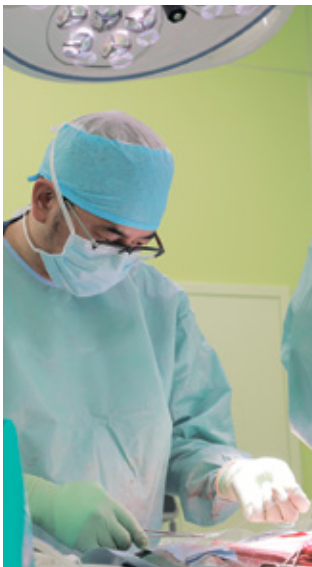
北部地域に1人在籍するのみで利根地域には1人もおりません。したがって利根地域では初めての『がん薬物療法専門医』となります。

そして『がん薬物療法専門医』による専門的な抗がん剤治療を行う診療科が『腫瘍内科』ということになります。

様々ながんに対する抗がん剤治療に対して専門的な知識と技術を持ち、臓器横断的な対応を取れる診療科と言えます。平たく言えば「がんのお薬の専門家がいる所」とお考えい

ただければ良いと思います。

私はもともと『消化器外科専門医』なので、胃がん・大腸がんを始め食道がん・肝がん・膵がん・胆道がんなどの消化器がんと乳がん・甲状腺がんの診療をこれまで行ってきました。基本的には消化器を中心に診療していくことになりますが、白血病などの対



▲手術中の福元医師。



▲福元医師の外科外来は毎週水曜日午前。腫瘍内科外来の診察日については近日お知らせいたします。

応不可能な疾患を除き、『がん薬物療法専門医』として可能な限り多くのがん種の抗がん剤治療も腫瘍内科外来で行います。また、セカンドオピニオンにも対応したいと考えていますので、現在の治療に不安を抱えておられる患者さまがいらっしゃれば紹介状をお持ちいただき『腫瘍内科外来』の受診を考えていただければ幸いです。現在の標準治療の説明と現状の問題点について一緒に考えていける外来になればと思います。

私のように『がん薬物療法専門医』と『消化器外科専門

行田総合病院における

抗がん剤治療のこれから

消化器外科
福元 剛

平成17年山形大学卒
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本癌治療認定機構がん治療認定医
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医

医』の2つの専門医を持つことをダブルボードと呼び、この組み合わせは日本全国を探しても100人程度しかないと言われています。抗がん剤治療中には様々な局面で外科的処置が必要になる場合もあります。外科領域のエキスパートである『がん薬物療法専門医』として地域の皆様に安心して抗がん剤治療を受けたいと思っています。

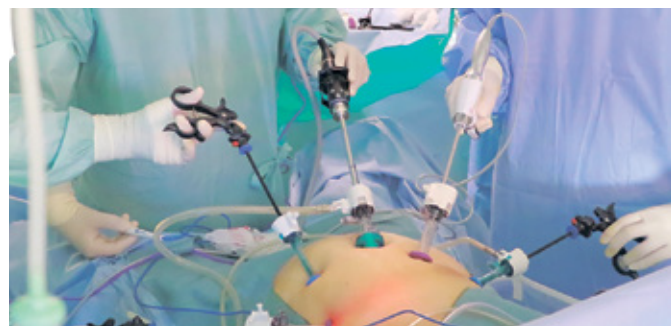
具体的にどの程度の診療を行えるのかまだまだ不透明ではあります。しかし、遠方の都市部の病院へ足を運んで抗がん剤治療を受けておられる患者さまの、身近な地域で専門的な治療を継続できる選択肢になればと考えます。まだ立ち上げたばかりの診療科であり対応には限界がありますが、地域の皆様の治療のお役に立てるよう全力で努力するつもりです。今後ともよろしくお願いいたします。



消化器外科

鎗田哲暢

平成18年名古屋大学卒
日本外科学会専門医



▲▼腹腔鏡手術の様子。



◀水・土・日曜を除きほぼ毎日手術を行い、手術室のスタッフと共に緊急手術にも対応できる体制を整えています。

▼外科の外来診療は、月～金曜まで東棟の1Fで行っています。鎗田医師は毎週月曜日の午前を担当しています。



ご高齢の患者さまが多い
当院において、吻合部の評価は
特に慎重であるべきと考えます。

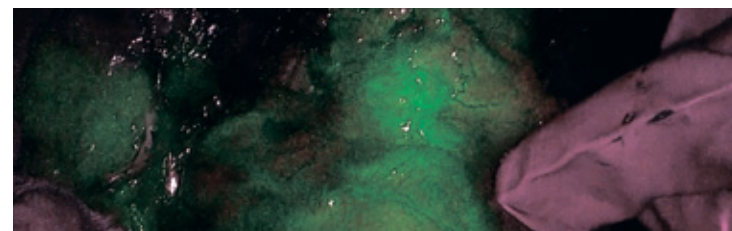
消化器外科は、病変のある腸管を切除してから、残った腸管同士をつなぎ合わせます。腸管をつなぎ合わせることを吻合といいます。この吻合部が問題なくくっつければ、術後の経過は良好であり、早期に退院することができます。しかし、ひとたび吻合部の破綻（縫合不全といいますが、発生すると、便汁が腹腔内に漏れ出して腹膜炎に至ります。そうなるで一時的な人工肛門の造設を必要としたり、退院までの期間も1カ月を超えてしまうことがあります。

したがって、腸管の手術ではいかに縫合不全を予防していくかが非常に重要です。全国の手術統計でも、ひと昔前よりも手術技術が進歩しているにもかかわらず、腸管術後の縫合不全はまだまだに一定の率で発生しており、部位にもよりますが3〜14%程度とされています。原因としては吻合部の血流、吻合器

より安全な

手術

のために
ICG腸管血流評価を行っています。



消化器外科／鎗田哲暢

消化器外科の手術では、病変のある腸管を切除してから、残った腸管同士をつなぎ合わせます。腸管をつなぎ合わせることを吻合といいます。この吻合部が問題なくくっつければ、術後の経過は良好であり、早期に退院することができます。しかし、ひとたび吻合部の破綻（縫合不全といいますが、発生すると、便汁が腹腔内に漏れ出して腹膜炎に至ります。そうなるで一時的な人工肛門の造設を必要としたり、退院までの期間も1カ月を超えてしまうことがあります。

したがって、腸管の手術ではいかに縫合不全を予防していくかが非常に重要です。全国の手術統計でも、ひと昔前よりも手術技術が進歩しているにもかかわらず、腸管術後の縫合不全はまだまだに一定の率で発生しており、部位にもよりますが3〜14%程度とされています。原因としては吻合部の血流、吻合器

このICGに特定の励起光を照射すると800〜850nmの近赤外線蛍光を発するという特性があり、この性質を用いることで消化器領域では腸管の血流評価やリンパ節・リンパ管に対するイメージングに試験的に用いられてきました。



ICGを用いた 手術中のイメージング

腸管切離前に腹腔鏡を近赤外線観察モードに切り替えて、ICGを静脈内に投与します。血流が良好な領域はICGの投与から約30秒〜60秒の間に蛍光発色することが確認できます（写真P4上）。もし腸管切離予定ラインの蛍光発色が不十分であった場合には、十分な血流がないことを示していますので、ここでの切離・吻合は不適切となります。十分に蛍光発色しているところまで切除し、吻合します。こうすることで吻合部の血流が十分となるため、縫合不全の減少が期待されます。

当科では多くの手術で腹腔鏡を導入し、腹腔鏡の拡大視効果を利用して精度の高い手術を行っています。今回、それに加えてICG蛍光イメージングを併用することで、縫合不全がより少ない、安全な手術が行えるようになりました。今後ともよりよくお願いいたします。

ロボット支援手術の 導入に向けて 着々と準備進行中です。



COLUMN
外科部長／川原林伸昭

今年度、当院外科でのトピックはダ・ヴィンチによるロボット支援手術の開始です。ロボット支援手術はこれから必ず主流になります。東京医科大学の絹笠祐介医師にプロクターとしてご協力いただき、直腸がんの手術から始め、将来的には胃がんまで進めていく予定です。また、4月にはダ・ヴィンチの経験が豊富な久田医師の入職が予定されています。当院消化器外科は、さらに患者さまに安全な手術を提供できるように前進してまいります。

NEWS & TOPICS

2019.1-2

埼玉県敗血症治療セミナー キングアンバサダーホテル熊谷 3F プリンセスの間



2019年2月8日（金）

外科部長・川原林医師が座長を務め、濱田医師が講演。

救急総合診療科・濱田医師による『当院で経験した急性胆嚢炎』、熊谷総合病院消化器内科・村上医師による『リコモジュリン投与にて改善し得た腎盂腎炎、敗血症性ショック、DICの1例』の一般講演。熊谷総合病院副院長・北医師が座長を務め、佐賀大学救急医学講座教授・阪本医師による『感染と凝固の密接な関係～血液の性状を取り戻そう～』と題した特別講演が行われました。

埼玉県特別機動援助隊合同訓練（埼玉 SMART） 鴻巣市上谷総合公園



2019年2月7日（木）

医療機関・消防機関・防災航空隊・警察との連携強化訓練に当院 DMAT が参加。

大規模災害等による埼玉県内の被害を最小限にするため、実践的な訓練を通して消防機関と医療機関の円滑な連携強化を図る目的で開催された訓練。想定は『鴻巣市上谷総合公園内スタジアムにおいての爆発事故。消防本部が出動要請▶埼玉県知事が埼玉 DMAT 出動要請▶防災航空隊が調査▶鴻巣警察署が犯罪の可能性も考慮した状況調査』。消防指揮隊・統括 DMAT を中心に組織的な活動の重視、傷病者多数の現場における迅速で適切なトリアージの実施、応急救護所からの円滑な搬送医療機関決定と搬送などの訓練が行われました。

COLUMN

ドクターやナース、コメディカルの日常、大げさにいえば人生観まで。
好評につき、連載中！

赴任から 1 年を迎えて

初期研修医以降 9 年間勤めた大学病院を辞めて、2018 年 4 月から行田総合病院でお世話になっています。気付けばもう 1 年が経とうとしており、ここでの生活にもだいたい慣れてきたように思います。また、周りのスタッフにも恵まれ、充実した日々を過ごせています。これまで診療に携わった患者さまには、春の田植え時期の忙しさ、夏の夕暮れ時の稲穂の美しさ、秋には今年も無事育ったお米を収穫できる喜びについて教えていただき、以前より季節と時の流れとを実感しながら過ごせるようになりました。

私には大事にしている手紙があります。小学校の担任の先生から、大学受験に合格した際に送られて来た手紙です。私は幼稚園の頃からサッカーばかりやっていて、学生時代もそれは変わらず、親に多分の迷惑をかけながら浪人生活を経て医学部に入学しました。そんな中、誰に合格の知らせを聞いたのかは分かりませんが、突然、小学校時代の担任の先生から祝福の手紙が届きました。当時は悪いことをした子達を一行に並べ、手の骨と頭蓋骨がうまく当たるよう独特な手の形でゲンコツをする先生でした。子供からすると、とつつきにくい雰囲気先生でしたが、生徒想いの先生で皆に好かれていました。私も先生のことは好きでしたが、卒業以来会っていませんでしたので、手紙が届いた時は驚きました。届いた手紙には優しい文面で祝福の言葉が書かれており、最後に「患者は優秀な医者を求めて病院に行くわけではないのです。寄り添ってくれる医者を求めて病院に行くのです。だから、寄り添える医者になってください」と書かれていました。もちろん寄り添える優秀な医者を求めて病院に行くのだと思いますが、先生の言わんとしていたことは時間が経つにつれ重みを増しているように思います。2 年程前、小学校時代の友人の結婚式で久しぶりに先生に会うことができたので、「先生にもらった手紙、今も大事に持ってますよ」と伝えたら、「あー、書いたね。そうか、そうか、良かった ...、何書いたっけ？」という返事が返って来ましたが。

行田総合病院は地域密着を目指した病院です。地域の方々に寄り添った医療ができるよう、これからも頑張っていると思いますので、よろしくお願いいたします。



消化器外科

松平慎一

ADVERTISING

院内・院外からの広告を受付ております。

◎消化器外科・薬剤課からのお知らせ

外来化学療法室のご案内

がん薬物療法（抗がん剤によるがん治療）は、入院して治療を行うことが一般的ですが、新規薬剤の開発や副作用の軽減など医療の進歩によって、外来でも安全にがん治療を受けることができます。患者さまは自宅で生活を送り、ご家族の援助を受けながら、がん治療を受けることが可能になっています。当院でも消化器、泌尿器の疾患で手術を行った患者さまを中心に化学療法を行っています。がんセンターを始めとする多くのがん治療機関、専門医、看護師、社会福祉士と連携し、適切で安全ながん治療の提供に努めています。外来化学療法室には、治療中の患者さまの苦痛を少しでも和らげるために電動ベッド、電動リクライニングチェアが整備され、テレビや DVD プレーヤーが完備されています。また、薬剤師も常駐し、高い技術と最新の知識をもって正確な抗がん剤調製を行っています。外来化学療法室に所属する薬剤師は、医師が処方した薬を調剤するだけでなく、医師や看護師と協力しながら、患者さまに正しい薬が正確に投与されるかを確認する作業を行い、患者さまが安心して治療が受けられるように最善の努力をしています。

〔行田総合病院 消化器外科・薬剤課〕

◎検査科からのお知らせ

軽度認知障害の血液検査『MCI スクリーニング検査』が受けられます。

アルツハイマー型認知症の前段階である軽度認知障害（MCI）の兆候を早期発見する検査です。軽度認知障害（MCI）とは、健常者と認知症の中間段階を指します。日常生活に支障はありませんが、そのまま経過すると約 5 年で半数以上が認知症に進行するといわれています。

▶こんな方におすすめします！

■ 50 歳以上の方 ... 認知症が不安。

■ 最近、もの忘れが増えてきた ...。

■ 親や家族の様子が少し変わった気がする ...。

■ 肥満や糖尿病など生活習慣病の恐れがある ...。

※検査は当院にて採血のみです。医事課にお申込みください。検査料金 20,000 円（税別）。

※詳しくは院内に置いてあるパンフレットをご参照ください。

〔行田総合病院 検査科〕

◎『下肢の血管専門外来』／血管外科からのお知らせ

ところで、『足のむくみ』が気になっていませんか？



【illustration】足がだるい重い.biz

一過性ではなく数日間『足のむくみ』が続くような場合には病気の可能性があります。

- ・ 足がだるい
- ・ 足の血管がポコポコと浮き出ている
- ・ 夕方になると足がむくむ
- ・ 夜間に足がつりやすい

このような症状を少しでも感じたら受付窓口にご相談ください。

血管外科医による診察を行っております。

〔行田総合病院『下肢の血管専門外来』／血管外科〕